

がん化学療法プロトコール

氏名: _____
 ID: _____
 体表面積: _____ m² 体重: _____ kg

プロトコール名 **ABVD療法**
 対象疾患 ホジキンリンパ腫
 診療科 血液内科
 施用者 _____

1 投与薬剤名、投与量、投与方法

	投与薬剤名	投与量	投与可能量 (mg)	溶解、希釈液	投与方法
①	生食	500mL			血管確保とフラッシュ
②	プロイメンド	150mg/V		生食 100mL	30分で点滴静注
③	グラニセトロン バッグ	3mg/50mL(1袋)		混注	30分で点滴静注
	ソルコーテフ	100mg/V			
④	ダカルバジン	375mg/m ²		生食 500mL	2時間で点滴静注 ルートも含め遮光!
	注射用水	1Vあたり10mLで溶解。			
⑤	ドキシソルピシン	25mg/m ²		生食 100mL	30分で点滴静注
⑥	ブレオマイシン	10mg/m ²		生食 100mL	30分で点滴静注 1回15mgまで。
⑦	エクザール	6mg/m ²		生食 50mL	15分で点滴静注 1回10mgまで。

2 投与方法の図式

時間 (hour)	1	2	3	4	5
①生食	----->				
②プロイメンド	→				
③グラニセトロンなど	→				
④ダカルバジン		→			
⑤ドキシソルピシン			→		
⑥ブレオマイシン				→	
⑦エクザール				→	

3 投与スケジュール

1クール28日間。1日目と15日目に施行。

4 特記事項

- ・ ダカルバジンはソルコーテフとの接触で析出しやすいので、ルートフラッシュが必要。
- ・ ダカルバジン点滴静注施行中は、血管痛を予防するためにルートも含め遮光を行う。
- ・ ドキシソルピシンは心毒性の頻度が高いため、生涯投与量500mg/m²以下とする。
- ・ ブレオマイシンは間質性肺炎の頻度が高いため、生涯投与量は300mg以下とする。
- ・ ブレオマイシン投与中はサチュレーションのモニタリングを行う。
- ・ プロイメンドは投与速度を補正する。